議　事　要　旨　記　録　票

日　　時	令和８年７月３１日（金曜日）　午前１０時から午前１２時まで
場　　所	中央公民館　実習室
会議件名	第１期 第１回日野市まなびあい審議会
次　　第	委員委嘱式 （１）開会の挨拶 （２）事務局紹介 （３）委員紹介 （４）議長・副議長の選任 議題 （１）公民館の運営について ・公民館の運営状況に関する評価について（令和７年度事業分） ・令和８年度の公民館事業の評価についての検討 （２）日野市まなびあい審議会の今後の進め方について ① 令和８年度の開催日程について ② 生涯学習部門での連携について（各部署の得意なことによる連携事業の検討等）ひのたまULTLAプログラム報告 （３）報告事項 ① 生涯学習支援課・図書館・ふるさと文化財課 ② 東京都市町村社会教育委員連絡協議会の役員について（情報共有） （４）その他
参 加 者	出席委員 須崎議長、生島副議長、船山委員、山口委員、諸星委員、山本委員、 鈴木委員、清水委員 欠席委員 和田委員、柳元委員 事務局 飯倉生涯学習担当部長（郷土資料館長兼務）、関戸図書館長 大村生涯学習支援課長（中央公民館長兼務）、 郷原生涯学習支援課副主幹（中央公民館副館長兼務）、 岡本生涯学習支援課公民館係長 ・リモート参加無し ・傍聴希望者無し
配布資料	【資料1】第１期日野市まなびあい審議会名簿 【資料2-1】R８公民館評価（R７年度事業）

	【資料 2-2】第 2 次日野市公民館基本構想・基本計画 【資料３】R８_ひのたま ULTLA プログラム概要 【資料４】都社連協　定期総会議案書　ほか
主な内容	○開会の挨拶　飯倉担当部長 ・令和７年度より、生涯学習課と中央公民館の組織統合を行い生涯学習支援課が発足した。社会教育・生涯学習振興を政策的に進める部門と事業部門と統合したもの。 ・令和８年７月より、社会教育委員の会議と公民館運営審議会を統合し、まなびあい審議会を発足した。統合については縮小を心配する声も頂戴したが、社会教育・生涯学習の計画の立案と、実践の場である公民館の運営を一体で協議することで、より時勢を捉え現場感覚のある社会教育・生涯学習の推進を図る考えである。委員の皆様それぞれの知見や経験等から忌憚のない意見をいただき、それらを踏まえて取り組んでいく。 ○議長・副議長の選任 須崎議長、生島副議長 <u>協議内容</u> （１） 公民館の運営について ・公民館の運営状況に関する評価について（令和 7 年度事業分） 事務局より評価書に係る評価の目的、公民館の現状、評価の実施方法、評価対象、評価結果を説明。 （委員） 評価書の「事業実施状況」の表に記載されている「利用者数」が延べ人数となっているが、実態が見えないのでは。「実人数」で把握することはできないか。一部の人が使用しているイメージがあるので、「延べ人数」で市人口の 1/4 との説明は疑問である。 （事務局） 利用団体から参加人数の報告を受けており、お名前等をうかがっている訳ではないので、数字の出し方として、延べ人数となってしまう。 （事務局） 図書館は「実人数」、郷土資料館は「延べ人数」を出している。施設によって利用登録等の違いがあるので出せる数字は異なる。延べ人数での「市人口の 1/4」との説明は削除する。

	（委員） 今のご指摘は大事なポイントで、以前の公民館運営審議会では、公民館の統計の取り方は利用登録の形が無いので、この数値の出し方しかないのは、仕方ないのかと思っていたが、まっとうなご指摘だと思う。 例えば、利用団体登録数の変化を考えていくと、その団体登録の利用の変化というのも新たなリピーターがどれくらい増加したか分かってくるのではないか。 もう一点、この説明をいただいた中で今後どう動いていくのかを確認したい。これは案なのか、案だと確定ではないので、再度修正があるのか。あるとするとそれを前提にここで意見を受け取っていく必要がある。公民館運営審議会では、そこで決定して、反映されて教育委員会に報告される認識だったので、ここで意見をさらにうかがうのか、そしてそれを受けて変更して報告していくのか、ということを共有しておいたほうがよいのではないか。 （事務局） 事務局としては、公運審で協議したものをまなびあい審議会に渡す。まなびあい審議会は、条例上公運審としての役割を担うので、ここでご意見をいただき修正して教育委員会に報告するという流れで行きたいと考えている。本日の修正を反映させた形で教育委員会に議案を提出する。 （委員） 令和８年度事業の評価については、本審議会でこの評価部分を作っていくことを皆で最初に認識しておいたほうがよいと思う。そういった意味では、参考例としてこの部分は、注目しておいたほうがよい。 まなびあい審議会は、公運審の役割を担うこととなっているが、公運審ではなく、まなびあい審議会である。 令和７年度事業についてのこの評価書は、公運審の意見によってできた評価で、ほぼここで固まったものとなる。この評価書全体の建付けを説明として入れたほうがよいのではないか。つまり、「どのように評価をしたか、経緯についてこの端境期での評価、前期の公運審での意見を反映し、その上で本審議会にかけて成案化されたものである」といった文をどこかに入れたほうが評価をされた経緯が明確になるのではないか。 （事務局） 今回の評価書は、何回か修正した上で内容については、前期の公運審で承認されたものではあるが、その結果を踏まえて全体について本審議会で承認したというものであるということ。その経緯を「4　評価の実施方法」に明記

	するということで、よいか。 （委員） そこに付け加えたほうがよい。 （事務局） 本審議会の意見を反映し記載内容を変更したものに関して、審議会委員の皆様にフィードバックし、確認いただいた上で教育委員会に報告する。 ・令和８年度の公民館事業の評価についての検討 （事務局） 評価書の従来の作成方法について、事務局が分厚い事業の報告書を作成し、公運審の皆様に施策の柱ごとにご意見をいただいて、事務局がまとめたものが、評価書となっている。事務局が全て取りまとめているところで、疑問に感じていた。評価方法の改定ができたらと考えるが意見をいただけないか。 （委員） 今までは、公民館の事業報告が全てまとめてあり、大変分厚く量があった。それを各委員が個別に確認して評価を行う作業と、各委員が評価したものを公民館が全て取りまとめていかなくてはならないといった作業があり、事務局も委員も成果に対して負担感があった。今年の新体制で考えると、この評価表に合わせる形に添って、委員間でお互いに評価書を見て話をしながら評価ができたらもう少しスリムになるし、まとめやすく、また、委員同士でその事業に対し、学びあったり考えあったりすることができるのではないか。ついては、事業の柱ごとに委員を担当に分け、審議会の場でグループワークを行い、担当になった事業について意見を出し合いながらグループごとにまとめる時間を作っていくのがよいと考える。 （事務局） イメージとしては、柱で分けられた事業一覧と各柱の評価シートが送られてきて、グループごとに意見を出し合うといったものか。 （委員） はい。 （事務局） この件については、事務局で案を作成し、次回の審議会で協議いただくこととする。 （委員） 図書館、郷土資料館での運営評価方法を参考にお聞きしたい。 （委員）

	図書館評価については、業務量が多いのは覚悟している。 今回公民館評価を拝見すると良くまとめられていると思う。事前に資料が大量にあったとおっしゃっていたが、事業の概要が分からない。日野の図書館の評価については、まず目標があって、事業概要が記載されている。それに対して委員が意見を出し合って課題の改善について協議しているところ。町田市では四か月かけてやっていた。決算が出るのが秋になってしまうし、相当大変だったが、それをスリム化しようとし、やり方としては最初から委員をグループに分けて定例会とは別に評価会議を行っていた。昔は町田の図書館協議会は年１０回やっていたので、その延長で出来ていた。日野市立図書館では、この四月に委員長を引き継いだので、委員を図書館評価の項目に応じて担当を分けて、事業について各委員が読み込んでそのままではまとめられないので、委員長と副委員長と二人で分けて意見を総括して各委員にフィードバックしている。学校関係者として校長先生も二人いらっしゃるので先生方にお任せしている。うまくそれぞれ委員の皆さんが関わるテーマに沿ってまず意見出しをする。評価書は最終的に教育委員会で委員の皆さんに「こういうことがあってこんな風に評価されていて、これが課題だな」という風にわかるような評価書を目指している。 評価の指標として、図書館だと登録者数や貸出数で動きは見られるが、公民館の場合は、部屋の稼働率であるとか集団学習の場であるからそういった場で使われた率がどれくらいか一応そういったデータがあるようなので今後の話として、こういったものを活用して検討していくと意外と動きが出せるのではないか。図書館と公民館とは性格が違うから比較はできないが、そういった方法もあるかと。 （事務局） 委員さん同士が集まって意見交換が出来ればよいが、対面で集まる機会は、中々スケジュールが暑い時期などあり、呼びかけをしたが実際集まれなかったこともあったので、委員さんの中で、オンラインのような意見交換が掲示板のような機能があったら良いなといった意見が昨年あった。 今年、試験的に情報共有アプリを使用し、そこで意見交換をし始めている。まだ投稿は少ないが、作成したものを展開してもらったりしている。以前は図書館も全部の事業を評価し、コメントをもらっていたが、意見が重複してまとめるのが大変なので、皆で協議し全体の事業の意見をもらっている。図書館は個別事業ではなく全体でまとめている。 （事務局）

	郷土資料館は、基本計画は作成しておらず事業ベースでやっている。かつては項目が多かったが事務の負担が大きく、項目を学校教育との連携事業や展示開催事業、資料収集・調査・整理事業など5事業にまとめた。事業の概要と事業の成果については職員が記載している。事業の成果は、アンケートや直接声を聞いたものを踏まえてまとめ委員の皆さんに意見をいただいている。 それぞれの社会教育機関で、位置付けや市民との距離感も違うので、評価方法をすべて統一する必要はないと思っている。評価に時間を取られて市民と接する時間が減るのもおかしい。負担感なく評価としてよい方法を見出していただけるとよい。 （委員） 今回、我々審議会は、社会教育委員という一人ひとりの委員と公民館運営審議会という会議体が一つになったものなので、公民館だけではなく生涯学習全体を考えていかなくてはならない。まなびあいプランまで広い視野で見ていき、評価というものも改めて考えていかなくてはならない。次回は、この審議会が、どういった位置付けなのかを委員皆が理解して、始める必要がある。 まなびあい審議会がどういう条例に基づいているか、その条例の中で我々が期待されている役割を理解して、まなびあいプランや公民館推進計画がある、そういう基礎的な情報を審議会委員が共有することが必要。 （委員） 事務局にお願いしたいことが2つ。関連法令等を整理し、基礎資料を共有することと、社会教育関係は、教育プラン、マスタープランとの関連を整理してもらえれば、何をすればよいかも見えてくる。公運審での協議の懸念等も理解しながらこの会がうまく進められたらと思うのでお願いする。 （２）日野市まなびあい審議会の今後の進め方について ・令和８年度の開催日程について （事務局） 開催は、年度で５回程度を考えている。今年度は公運審と社会教育委員の会議は、第１回を終えており、本審議会は本日入れて４回と思っているが、今後の課題もボリュームがあるので、どういった形でやっていくか検討する、公民館評価の刷新、今後目指すべきものの基本情報を事務局から提示の上で協議いただき、来年度以降の準備としたい。

	（委員） 今後の会議だが、「令和 8 年度」の会議にしていくのか、「第 1 期」の会議にしていくのか。社会教育委員の会議も公運審も前回、最後の会議なのに令和 8 年度第 1 回となっていた。この審議会は、第 1 期が 2 年後の 6 月まで任期があり、年度とずれてしまって分かりづらい。今後の考え方としては、第 1 期の会議第 1 回目を今回７月とし、次回が 2 回目、その次が第 3 回目と整理したほうが分かりやすいのではないか。 （事務局） 現在「令和 8 年度」第 1 回の会議となっているが、年度ではなく、「第 1 期」第〇回の会議という扱いで今後対応していく。 ・生涯学習部門での連携について <u>報告事項</u> 生涯学習支援課 ・ひのたま ULTLA プログラム報告（事務局） 多摩市との広域連携として、学校に行きづらいお子さんに対し、学校以外での学びの場として、毎回テーマを決めたプログラムで取り組んでいる。今回７月に３回実施し、参加者全員最後までやり遂げた旨報告 ・第 27 回アートフェスティバルの開催（事務局） ５月から３回実行委員会と開催し、10 月 24 日（土）25 日（日）開催に向け準備を進めている旨報告 図書館（図書館長） ・５月新選組まつりにてスタンプラリーin 日野塾 2026 を実施。昨年より多い参加者でスタンプ帳 354 冊販売。公民館まつりにひまわり号が参加し、本の貸し出しやひまわり号のペーパークラフト、子供たちに運転席に座っての記念撮影等楽しんでもらえた。 ・ひまわり号は 8/6～8/14 の中で５回、夏の猛暑による巡回休止予定。 ・中高大学生世代の「ヤングスタッフ」による図書館盛り上げようと夏の自由研究発表会（発表・展示）を 8/16 高幡図書館で 18 時開催予定。HP で観覧受付け中。 郷土資料館（生涯学習担当部長ふるさと文化財課事務取扱兼郷土資料館長） ・ふるさと文化財課は教育部と市長部局の産業スポーツ部の共管になっている。郷土資料館は、社会教育施設。新選組のふるさと歴史館や日野宿本陣は、観光的な役割もある施設となっており、予算上教育費ではなく商工費

	の扱いとなっている。組織としては、職員全員が両部に属す。学芸員を配置し、市内の歴史や文化について広くとらえるために令和３年度に設置された課である。 ・郷土資料館では、平和展示「中学生が出会ったヒロシマ」を開催中。東京都内中学校で初めて広島に修学旅行に行ったのが日野市の七生中だった。それを昨年知った学芸員が調査研究を進め、当時の中学生が何を感じたのか等を展示している。 ・新選組ふるさと歴史館では、企画展「新選組のふるさとしらべ隊」を開催中。幕末の歴史は難しいので、夏に来所しやすい小中学生向けに分かりやすい展示を毎年行っているもの。 ・その他、百草で縄文アクセサリー作成イベント、井上源三郎資料館で「天然理心流体験入門」を実施 ・先週、古墳の埋蔵文化財調査で石室が数十年ぶりに出てきたため、近隣の方向けに説明会を開催した。 （２） 東京都市町村社会教育委員連絡協議会の役員について（共有） ・今年度日野市が副会長市、来年度会長市である旨共有。 ・他市の近況報告 ４その他 （社会教育センター） ・社会教育協会創立 100 周年の年であり、記念講演が実施された報告及び講演録の案内 （公共施設再編担当） ・令和 10 年度中に公民館・福祉センターを解体するにあたり、福祉センターの利用団体も公民館利用団体として、登録する予定なので、その際登録団体が増えることとなる旨周知。